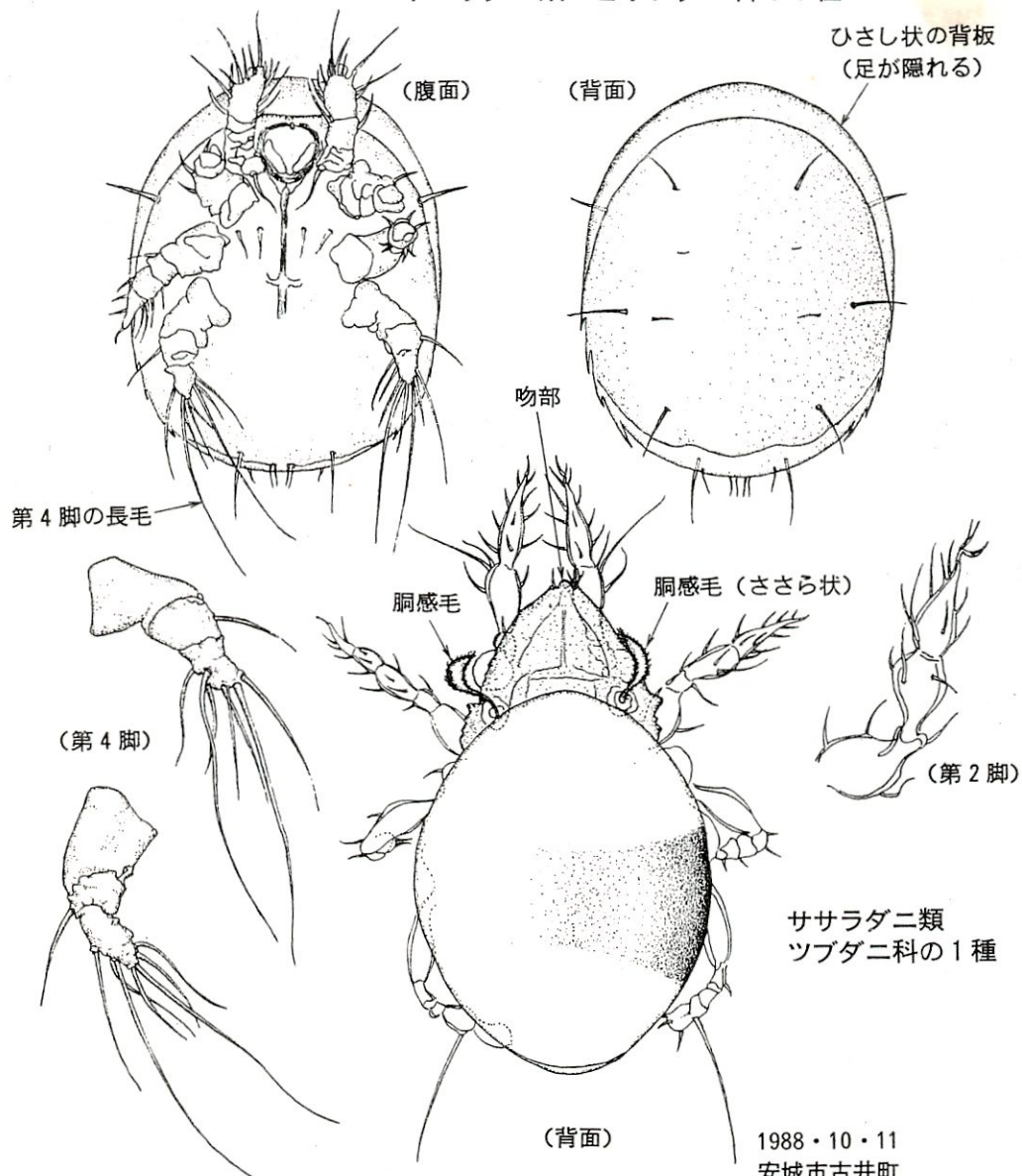


愛知県自然観察指導員連絡協議会

平成元年 1 月

森を守る住人たち、森に守られる住人たち

ホコリダニ類 ヒサシダニ科の1種



季節の話題

山椒魚（さんしょうお）

サンショウウオというと体長1mにも達するオオサンショウウオを思い浮かべますが、愛知県では体長10cm程の種類ばかりです。

知多半島から尾張丘陵地にかけてはトウキョウサンショウウオ、山地溪流にはハコネサンショウウオとヒダサンショウウオが分布しています。オオサンショウウオは、小牧市や瀬戸市等で時に拾われて新聞紙上を賑わせますが、天然分布かどうかは疑問視されています。鳳来町川合で記録されたといわれるクロサンショウウオは、標本もなく、溪流で採集されたという話（クロサンショウウオは寒冷地の池で産卵）からしても、間違いだと思われます。

このうち、トウキョウサンショウウオは人里近くで生活するため近年減少が著しく、大部分の産地で絶滅してしまいました。しかし、丘陵地の湧水のある池には、まだまだ知られていない産地があるはず。特に2月から3月にか

けては産卵の時期にあたり、成体が池の中で見られ、透明バナナ状の卵塊も見られます。

成体は産卵期以外は陸上で過ごし、夜間活動性のため、めったに姿は見られません。身近な隣人でありながら、分布域もはっきりしないうちに消えていくトウキョウサンショウウオの実態を、今のうちに観察しておくことは、大変意義のあることだと思われます。

生息地を御存知の方は、是非御連絡下さい。

（北岡明彦）



▲ ハコネサンショウウオ（成体）

トウキョウサンショウウオ ▶
（卵塊）



協議会ニュース24号 目次

- ・森を守る住人たち、森に守られる住人たち（辻 伸夫）…表紙
- ・季節の話題 さんしょうお ……………（北岡明彦）……1
- ・表紙のことば ……………（辻 伸夫）……1
- ・会員紹介 ㊹ ……………（北岡明彦）……2
- ・特集 新春座談会
協議会の明日を考える ……………（編集委員会）……3
- ・マイウォッチング
アミメカゲロウ集団羽化の記録……（調査委員会）……7
- ・会員広場 ……………（福西寿弘・山田一孝・石川静男）……9
- ・おたよりコーナー ……………（井上久義）……10
- ・支部だより ……………11
- ・協議会行事報告……………13
- ・おたよりコーナー ……………（朱雀英八郎）……14
- ・行事案内 ……………15
- ・会員異動 ……………15
- ・お知らせ ……………15

「落ち葉は土に……」

葉を落とした冬の疎林には、生き物たちの姿は見られないのでしょうか。秋に美しく色づいていた落ち葉を1枚ずつめくっていくと湿っぽくなり、やがて細片になってしまいます。

この枯色の世界にも大変な数の生物たちが活躍しています。ダニやトビムシたちが、その落ち葉を土に戻す大切な仕事をしています。

美しい森がいつまでも活力を保つためにも、落ち葉の中の働き者たちの息づかいを私たちは静かに見せてもらうことにしましょう。

（西三河支部 辻 伸夫）

私 と 自 然

北岡 明彦（調査委員長）



昆虫少年

最近はいざ知らず、少し前（30年程前）の男の子は、大抵一度は昆虫少年になりました。私も例外でなく、

鼻垂れ小僧（これすら今では珍種となった）の時から虫獲りに明け暮れました。小学校まではセミ獲り中心で、名古屋市熱田区の住宅街ではクマゼミを獲ると英雄になれました。しかし、カゴの中でむなしく死んだアブラゼミの数を思うと、今でも少し心が痛みます。

さらに、中学生の時はトンボ、高校の時はチョウ・カミキリムシと対象は変わりましたが、一貫して昆虫少年でした。

転機

それが高校2年の冬、突然、植物少年に方向転換したのです。徐々に心に募ってきた同じ種類の大量殺戮への疑問が、ある日爆発したのです。その日から、毎日生物部の部室で牧野植物図鑑をペラペラめくる生活が卒業まで続きました。

しかし、高校時代の思い出として残っているのは、どこでなにを獲ったという昆虫少年時代のもので、どことなく、不思議なものです。

またまた転機

やっとのこと合格した大学では、生物研究会一筋の生活になりました。そして、またまた転機となる2冊の本に出会いました。宮脇昭著の「植物と人間」（NHKブックス）と、同氏編の「植物」（学研）です。今までは、昆虫も植物も種としてだけ見ていました。この思想からは、採集⇒コレクションしか生まれてきません。2冊の本から、初めて集団としての植物、人間と自然の関係ということを学びました。クラブで行った2冊の本を読む勉強会は、本当に良い思い出になっています。

さらに、前川文夫著の「日本の植物区系」（玉川選書）と出会い、植物の分布地理という新しい

面を知りました。こうした本との出会いは、私の今の自然観の根幹を成しています。しかし、あぐくの果ては、2年間の留年つきの卒業となってしまいました。

昆虫少年・その後……

大学の中からバードウォッチングも始め、昆虫採集も復活しました。今では何が本職（中心）なのか、自分でもよくわかりません。何しろ、自然界の不思議やきらめくような美しさを、ひとつでも多くの分野から眺めてみたいのです。一方、ひとつの分野を専門的に取り組んでいる人達からは、「おまえは材木屋の息子だ」とか「そんなことでは、どの分野も一人前になれない」と言われますが、すべてが捨てがたい魅力で私をとりこにしています。

就職してからは目標を“面ノ木峠をフィールドとして森林のすべてを調べる”に決め、それ以来面ノ木通いが続いています。本当に多くの動植物が森の生態系を構成しており、何度訪れても新しい発見にびっくりし、自然の奥深さに感動します。霧の中でそびえ立つブナの古木、ブナの立枯木に集まる数多くの昆虫達、夜ライトに集まる昆虫達、溪流にすむサンショウウオ類や昆虫達のすべてが私に驚きと感動を与えてくれます。

そして、調査の時に一番役に立つのは、小さな種類も見逃さない昆虫少年の眼です。これからも昆虫少年だった頃の“新発見の楽しさ”を忘れることなく、自然観察をしていきたいと思っています。



協議会の明日を考える

編集委員会



北岡 1989年の新春にちなみまして、本日は「協議会の明日を考える」と題し、みなさまがたの忌憚のない御意見をお聞かせいただきたいと思います。なお、本日は、各支部の編集委員またはその代理の方々と、それからお客様として運営委員長の佐藤国彦さんにおいでいただいております。よろしくお願いします。

指導員講習会の感想

浅野 去年の11月の講習会を受けて指導員になりました。講習会は、短い時間で知らないことをいっぱい教えてもらったので、とても有意義だったなあと感じました。

榊原 私も去年の11月に指導員の講習を受けました。とにかく3日間で、頭がパンクしました。

(笑)。本当はもう少しものを考える時間とか自然と対峙する時間とか、そういう時間が欲しかったですね。それと、指導員というのは、やっぱり3日間でなれるものではないなというのが率直な感想です。

それから、協議会ニュースの表紙は、すごくいいなあと感じます。自分でもこういう絵を、植物で言うとボタニカルアートっていうんですか、やってみないかって考えているんです。ですから、この表紙は、いつも楽しみにしています。

間瀬 講習会は、去年の秋にこのみなさん方と一緒にやらせていただきました。出掛ける前は、これといった専門の知識もないし、この方面の特技に秀でた方の方に入っていくってどうしたらいいの

浅野 真理	西三河支部	編集委員
榊原 秀子	知多支部	代理
佐藤 国彦	名古屋支部	運営委員長
渡並喜一郎	名古屋支部	編集委員長
間瀬 美子	東三河支部	代理
三輪治代美	名古屋支部	編集委員
横山 良哲	奥三河支部	編集委員
北岡 明彦	尾張支部	編集委員(司会)
永井 利幸	名古屋支部	編集委員(編集)

か等と迷いがありましたが、講習を伺って見て、ああよかったなと思いました。「これなあに」ではなくて、自然に素直な気持ちで接していくっていう姿勢を教えていただいたということで、自分が今まで考えていたこととも共通している気がして安心しました。自然保護のあり方についても、政治でもないし、保護、保護といって騒ぐのでもないしというような基本的な姿勢というのか、あり方もあるのかなあって思いました。自然と人間が接するのにあまりヒステリックになってはいけないし、やはり自然を破壊しない方向で、自然に親しむっていうかたちにもっていくことが最上じゃないかなということを勉強しました。

横山 私は3年前に県民の森で講習を受けました。地元ということもあって、植物と石はいつも遊びに行っていて親しんでいたんですが、昆虫が川の中にあんなにいるということを知らなくて、ずいぶんたくさんの種類の昆虫がいることを見せてもらって、総合的に見る力が少しついたのかなっていう感じがします。というより、そういう場へ行ったら基本的なことを教えてもらわないと、どうしても自分の好きなことばかりに片寄ってしまって他のことに目が行かなくなるっていうことが分かり、勉強になりました。

三輪 私も去年皆さんと一緒に講習会を受けさせていただきました。講習会は、自分が考えていた観察会のイメージとは違うなと思いました。まわりに生えている木とか昆虫とかを観察するのかな



って思っていたんですが、土壌動物とかが観察会の対象になるなんて意外な感じがしました。それから、活動の進め方とか、皆さんどういう考え方でおられるのかなんていうことについて、

三輪治代美さん 茶話会のような形式でみんなと話合う時間が欲しかったし、協議会からもそういう話が聞きたかったですね。

渡並 私は、56年に犬山ユースホステルで講習を受けました。ここしばらくは、一生懸命、昆虫の写真を撮っています。

佐藤 私の場合は、皆さんとは若干立場が違って、仕掛けたほうなんです（笑）。いちばん最初は、54年に自然保護協会の工藤さんが、こういうことをやるんで愛知県でもぜひ協力してほしいという話をもってきたんです。当時、県の自然保護課にいて、保護課のいろいろな事業の中で、一般の人達を対象に研修をするような事業が欠けていると思っていたし、自然保護協会がどんな考え方をするのか聞いてみたかったので、一年だけお付き合いをしてみようということで始めたわけです。ところが講習を受けて、自分も自然から恩恵を受けている以上、何か自然に対してお返しをしなくちゃいかんなど考えるようになって、協議会の仕事を手伝うようになったわけです。

北岡 僕が講習を受けたのは57年で、その時は、自然保護協会の人と県内の高校の著名な先生が講師でした。その時、僕は「名前が知らなくてもできる」というのは無理で、必要最少限のことは、覚えなければならないと思いました。



北岡明彦さん

僕が指導員にとって一番大事だと思うことは、「自分の得意の分野を持って」ということで、その分野については人前でも話ができるという自信ができれば、十分自然観察指導員は勤まると、こう思います。

観察会のあり方

北岡 協議会の基本的な活動には、3本の柱があ

りまして、それは自然観察会・調査・研修の三つです。特に後の二つは、会員の勉強の意味を持たせてあります。今は3日間の講習を受ければ指導員ですよというシステムですが、実際にはそんなわけには行かなくて、指導員になってから、いかに勉強するかによってその指導員の価値が決まってきます。そこで、協議会として指導員の勉強のお手伝いをするため、調査と研修とを設けてあるわけです。とはいっても、観察会が協議会の活動の中心であることは間違いなく、その観察会が、今どんなふうに行なわれているのか、どんな問題を抱えているのか、今日は、まずこのテーマで話を進めたいと思います。

間瀬 東三河は、今年初めての試みとして、会員を五十音順にABCの3班に分けて、観察会ごとに当番の班を決めてやりました。役員の方が、できるだけ多くの人に出てもらいたいと苦勞してこう決めたのですが、当番の日が来てみると、いろんな用事ができたりで、出席できる方が大体固定してきてしまって、なかなか新しい方がおいでにならない。もっと広げたいなあって感じます。

それから、やはり何年もやっていらっしゃる方の御意見だと、少しマンネリになっていて、指導の仕方がおもしろくないんじゃないか、もっと違うやり方を考えなければいかなのじゃないかという話を伺いますね。来られる方たちも、何か新しいことを覚えて帰りたいという方が多いようです。もう少し要点を整理して、参加者にもいろいろ考えていただくような、それでいて楽しくできるような、教えてもらうというのではなく、自分が参加したんだという会にできたらいいなと思います。

榎原 半田市で身近な場所を選んで、自分達が住んでいる所の自然について観察会をやったのですが、自分でもすごく興味がわいて、楽しかったです。身近な所でやると、参加者から逆に教えられるこ



間瀬美子さん(左)と榎原秀子さん

ともあったりして、それも良かったと思います。やはり一方的に説明して終るのでは良くなく、参加者から吸収するものもあるんじゃないかという気がします。



横山良哲さん

横山 奥三河は、会員の人数は少ないけど、それぞれ専門的な知識を持っておられますし、みな熱心ですよ。奥三河は、どこをとってもフィールドとしてはいいんですけど、地元の人は毎日

自然に密着しているせいか(笑)、自然観察といっても来てくれません。県の観察会には、名古屋とか、豊橋から来てくれるんですけどね。

三輪 尾張支部では、月例の観察会を定光寺と善師野でやっているのですが、季節の移り変わりがよく分るし、今年は何が成り年だとか、何がいっぱい発生しているとかがよくわかってなかなかおもしろいと思います。

浅野 西三河支部は、忙しい人が多いせいか指導員の集まりが悪いのです。だから事前に全体のシナリオやポイントの打ち合わせが十分にできなくて、自分のやりやすい方法になってしまうんですね。参加者の立場に立って考えると、私は少しものたりないような気がします。

佐藤 僕の経験からすると、自然観察会では、自然のしくみを教えるということ以上に、指導員が自然をどう見ているか、自然をどういうふうと考えたらいいのかということを伝える場だと思います。

さらに、一つの会としてやる以上は、今回はこのテーマでこういうことをアピールしようということを徹底しておくべきだと思います。



佐藤国彦さん

北岡 参加者をたくさん集めるためのPRと、指導員のなかで役割分担ないしはシナリオをしっかり付けることの二つが、今、一番足りないような気がします。これからは、自然そのものよりも、シナリオなどソフトのほうが必要になってくるでしょ

う。

三輪 参加者は、ふだん、自然に囲まれていない人がやって来るのだから、会のハイライトは、例えば、手で触れて楽しんでもらえるものにして、自然とじかに触れ合ってもらうことが大事じゃないかな。

北岡 参加者に手作業をしてもらっているところはありますか。尾張支部では、土壌動物のハンドソーティングをやってもらいましたが、カニムシが出てきたりして、好評でした。

横山 川原の石集めをやったら、子供達が一生懸命になってやりましたですね。

北岡 手作業による観察手法のいいアイデアがなかなかないですね。ほかには、夏なら水生昆虫、秋だとドングリ、例えばシイの実を食べさせるとかぐらいでしょうか。手作業による観察手法の研究は、課題の一つですね。

それから、PRが不足している。新聞、市町村の広報をもっと活用するべきだと思います。市町村の広報は、子供の検診等が載っているの、若いお母さん方を中心によく読まれています。

間瀬 この前の観察会で、この会を何で知りましたかというアンケートをとったら、市の広報が12人、新聞が5人であとは口コミその他でした。

佐藤 協議会で、ある程度まとめてマスコミへニュースを流す必要があると思います。それから、この頃、野鳥の会などの観察会が増えたので、それらとの違いを出す必要があるでしょう。

北岡 今の観察会は内容が豊富すぎると、名古屋支部の岩崎さんがおっしゃってた。参加者が自分で考える場面が少なく、支部主催の観察会などで、新しい発想の下に、例えば、1か所に留まって行なう観察会を開くなど実験的な試みをする必要があると思います。

調 査 等

北岡 協議会では、今年ブナ科の樹木分布調査、水生昆虫分布調査、哺乳類分布調査を実施し、土壌動物研修、植生調査研修、指導員研修を実施しました。しかし、参加者が非常に少なく、特に調査については、300人会員の力を結集していかなければ成果があがらないですね。

横山 ブナ科樹木の分布調査は、いったい何の役

に立つのかよく分からないのですが。例えば、協議会の調査の結果、そこの森が自然環境保全地域に指定されて保全されるというような、これだという核になるようなものが見あたりません。

浅野 私のような素人には、資料だけでは調査の趣旨がよく分からなかったの、やってみようという気になりませんでした。



浅野真理さん

三輪 調査資料をもらってまず、ブナ科の植物なんて誰かがもう調べてあるのではと思いました。

横山 調査の目的がはっきりしていないと力が出ません。例えば、三河のほうでは水が大事だといながら、保水力のある雑木林を伐って植林を進めています。鳳来湖の奥にはサルがいっぱいたのだけれど、雑木を伐って植林してしまいました。そこはガレ場なので崩壊の恐れもあるのに、そういうところにまで植林してしまう。問題だなあと、思ってるんですけど。協議会で、保水力のある森の分布調査をしてはどうでしょうか。

北岡 目的意識という面でのPRは、確かに欠けていましたね。ブナ科樹木の調査についていえば一般的には、特殊な植物の分布は案外詳しく分かっているのに、我が国の森林の主要構成木であるブナ科樹木の分布のような基本的なことについては、まとまったデータがないんです。どこの県でもよく分かっていないんです。

横山 そういうことなら、意欲がわいてきました。ブナ科の分布は未知の分野だったんですか。

協議会に望むこと

間瀬 協議会に望むことで一つ申し上げたいのですが、会が専門的になりすぎて、一般的な自然愛好家が出てきにくくならないようにお願いしたいと思います。一芸に秀でていなくても、一般的な自然愛好家でも、行けばなにかのお役に立てるといような抱擁力のある会にしてもらいたいと思います。

それから、世話役の方から、今度何々があるから来て手伝ってもらいたいと声を掛けてもらえると、どうしようかなって考えていた人でも出てこ

れると思うんですが、紙に書いたお知らせだけではなかなか人は動いてくれないと思います。まとめ役が欲しいですね。

榊原 私も協議会についてお願いがあります。じつは、協議会がどんなものであるかが、私自身、正直いってよく分かりません。自然保護を全面に出して活動を進めていくと、どうしても政治に突き当たりますよね。でも、それは避けているのかなあっていうことを感じます。ただ、大きな流れとして、自然が破壊されていく、それに対してみなさんがどういう行動をしているのかということに、私はものすごく興味があります。それから、自然観察会の参加者は、「なぜ自然を保護しなければならないのか」ってということには、あまり興味がないんですよね。その辺のことについても、協議会がどういう姿勢をとっているのかを知りたいと思います。

佐藤 この協議会を作ったときの理想は、世の中の人の自然及び自然保護に関する疑問に何にでも答えられる会にしたいと思ったんです。例えば、県内のブナ科の分布はどうなっていますかと聞かれたらパッと答えられるという、いわば博物館的な機能を持った会にしたかったですね。

渡並 会の役員も協議会ニュースでもこういう問題について取り扱ってこなかったのは、この会をまとめていくうえでの弱点だなと思います。



北岡 確かに協議会のいろんな行事に関してPR不足

渡並喜一郎さん

だということは言えると思いますね。これからは、協議会ニュースを通して会の趣旨・目的・その他のいろいろなことを努めてお知らせするようにしたいと思います。

今日は、お忙しいなかお集まりいただき、いろいろと貴重な御意見をお伺いすることができました。皆様からいただきました御意見を参考にして、運営委員会や理事会で検討して、よりよい協議会活動を展開して参りたいと思います。本日は、長時間ありがとうございました。

(文責 永井利幸)

アミメカゲロウ集団羽化の記録

水生昆虫調査委員会

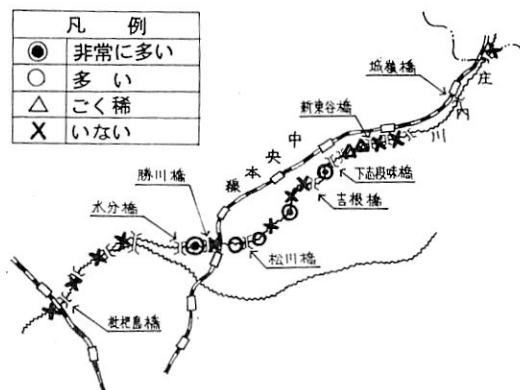
前号の協議会ニュースでお知らせしたように、水生昆虫調査委員会の主要課題であるアミメカゲロウの集団羽化が、例年通り9月にありました。

庄内川では9月10日(土)～12日(月)にかけて見られましたが、今年の夏が一般に低温だったせい、昨年より3日遅れ、一昨年より4日遅れとなりました。一方、豊川では9月12日の調査により集団発生が記録されました。

まず、庄内川における調査結果を報告しましょう。調査は、のべ3日、参加者はのべ25名で行いました。

このうち、幼虫分布調査は、羽化直前の8月21日に行いましたが、前日までの雨の影響で川が増水しており、完全な調査ができなかったのは、残念です。28日には補足調査を行いました。その結果は、最下流の名古屋市中村区の大正橋から、最上流の瀬戸市下半田川町の諏訪橋までの間の20地点のうち、下図のように7地点で老熟幼虫が確認できました。その中でも、水分橋から下志段味橋の間に多産地が集中しており、これは、アミメカゲロウ幼虫が好む、川底が小石からなる流れのやや緩い瀬という環境にぴったり一致します。東谷橋から上流には、川底が小石からなる瀬がたくさんありますが、流れが速すぎるのか、シルトの堆積によるのか、幼虫は全く見られず、イトミミズ類が非常に多く見られました。こうしてみると、

凡	例
●	非常に多い
○	多い
△	ごく稀
X	いない



アミメカゲロウ老熟幼虫分布調査結果

アミメカゲロウは、まさに中流域を代表する水生昆虫といえそうです。

集団羽化を待ちかまえていたところ、9月10日に守山区吉根橋で集団羽化第1日目を確認することができました。前日までは、発生は全く見られませんでした。そこで、調査態勢を整え、17名の参加を得て、6橋(下流から水分橋・勝川橋・松川橋・吉根橋・下志段味橋・新東谷橋)で調査を行うことにしました。9月10日の19時から21時までの観察では、吉根橋・下志段味橋・新東谷橋で大発生、その上流の東谷橋・鹿乗橋・玉野橋・城根橋までは、水銀灯に3～5匹ずつチラホラと集まっていました。そして、それより上流では全く



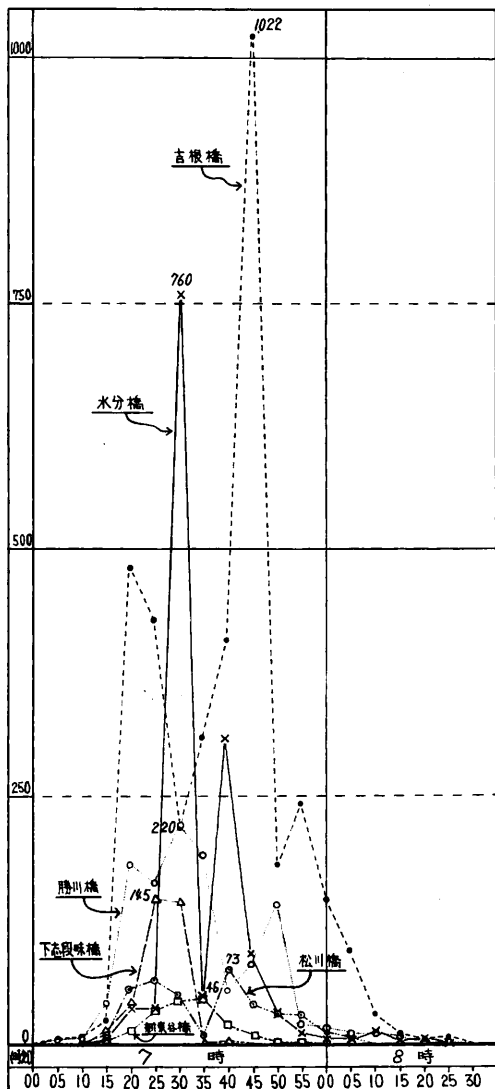
カゲロウの幻想

見られませんでしたが、また、玉野橋では、橋の中央部で、下流から上流に向かって飛んでいくカゲロウをかなり観察できました。水銀灯に集まらない個体の方が多いようです。

(1988・9・11 守山区吉根橋) 調査は、直径40cmの捕虫網を水銀灯の下で10回振って採集したカゲロウの個体数を5分毎に調べて行いました。

9月11日は、曇天で7時30分頃から40分頃にかけて小雨が降ったり、多くの橋で風が強かったりして、ベストコンディションとはいえませんでした。また、後述するように調査方法等にも多くの問題があり、来年の課題をたくさん残してしまいました。一斉調査の難しさをつくづく感じました。

6橋での調査結果をグラフにすると次頁のようになります。個体数からいうと、吉根橋が圧倒的に多かったようです。ピークの10振り1,000匹という時には、アミメカゲロウで水銀灯がほとんど見えなくなります。水銀灯の光が半透明で乳白色の翼をうかびあがらせ、乳白色のボールのように見えました。この時は、アミメカゲロウと呼ぶよ



アミメカゲロウ飛来数の時間的变化

り、別名であるオオシロカゲロウと呼んだ方がびつたりします。他の橋では、これ程までの個体数はいなかったようです。

全体的に見ると、個体数に多少はあるものの、19時5分から10分に羽化が始まり、20時30分までには完全に死滅するという、顕著な傾向がわかります。これは、昨年の観察結果と同一です。

この結果を幼虫分布調査と比較すると、おおよそ相関関係が認められます。当然のことではありますが、すぐ下流の橋との間に大量の幼虫がいる橋は大量の亜成虫が集まりました。しかし、水分橋だけは、増水で幼虫調査ができなかったため、予想外の大量飛来にびっくりしました。

今回の調査では、多くの反省点と新発見がありました。

反省点としては次のようなものがあります。

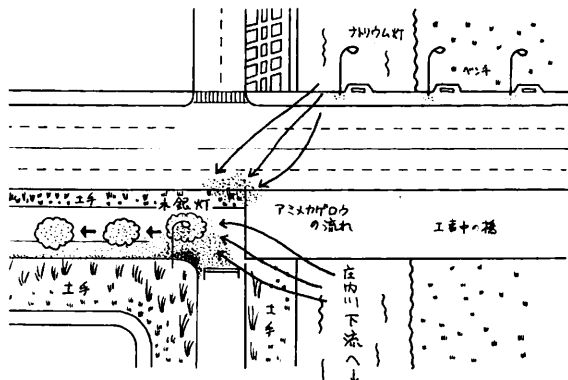
- ①カゲロウの飛来には何回かの波があり、5分毎の調査では、この波を捕えられない。
- ②いくつかの橋では水銀灯が高すぎて、カゲロウ密度が最も高い所まで届かない。
- ③長い橋の場合は水銀灯がたくさんついており、カゲロウが分散してしまう。
- ④風の影響等により、集まる水銀灯が移動する。

また、次のような新発見もありました。

- ㊦ 9月11日18時に、吉根橋上流の幼虫生息地を調べたところ、極くわずしか見つからなかった。

(羽化直前に、幼虫は移動するのかもしれない)

- ㊧ 勝川橋では上流側の橋上にナトリウム灯、下流側の橋側に水銀灯があるが、カゲロウはすべて水銀灯に集まり、ナトリウム灯にはほとんど集まらない。(下図のとおり)



勝川橋におけるアミメカゲロウの飛来状況

- ㊦ カゲロウは移動する時に、上手に風を利用する。(あるいは単に流されるだけかも……)

また、豊川下流域～中流域にかけての8橋の観察では、豊橋市の下条大橋(河口から12km)から新城市桜淵の笠岩橋(同28km)にかけて少数ずつ確認できました。しかし、一宮町の加茂橋・金沢橋・江島橋では前夜の死体が多く、相当量発生していることがわかりました。

このように多くの課題はあったものの、1年目の調査としては、おもしろい結果が得られました。

最後に、各調査員の皆さん、募集に応じていただいた方々に御礼を申し上げますと同時に、来年も是非御協力下さるようお願いいたします。



パソコン通信に凝っています

（名古屋支部 福西寿広）

パソコン通信という言葉聞かれた方は多いと思いますが、初めて聞かれたという方のために、簡単に説明しますと、自宅のパソコンを電話回線につないで、遠方にあるパソコンと大型コンピューターを介して相互に通信するシステムです。

通信の内容は、パソコンの画面に文字で表示されますから、手紙と同じように文書として保存することが出来ますし、同時に電話の即時性も兼ね備えているという優れた通信システムです。

又、手紙や電話が特定の相手との通信であるのに対し、パソコン通信には丁度広場に置かれた掲示板のような機能があります。

つまり、誰でもそこに自分の意見を書き込むことが出来ますし、他の人の書いたものを読むことが出来ます。

この機能を使えば、グループである問題を討議したり、会議のような事も可能になるわけです。

ところで、私が加入している某社のネット（パソコン通信のための通信システムを全国規模で構築している企業が数社あります）には、「自然と動植物」をテーマにした意見交換の場があります。身の回りの自然や、動植物等の一般的な知識に関する書き込みがほとんどですが、なかにはかなり専門的なものもあります。

又、自然保護に関する議論も行なわれています。今のところ、参加者の少ないこともあって、本格的な調査などには利用されていませんが、もしも全国の観察指導員が加入すれば、自然観察のためのネットワークが出来上がります。そうなれば、燕の初見日とか、桜の開花日なんて情報は、たちどころに手に入りますから便利でしょうね。

それに、調査とか情報交換を通じて、他の地域の指導員と交流が深まれば、まさに一石二鳥です。もっとも、1日中パソコンに向かい合ってる指導員というのも、かなり不気味な気はしますが。

「愛知万博」に思う

（名古屋支部 山田一孝）

愛知県の「21世紀初頭に愛知県に万国博を誘致する」という構想を、指導員の方々はどう受けとめられましたか？多くの方があの名古屋オリンピックの事を連想されたのではないのでしょうか。

私が思い出したのは、当時オリンピック誘致に反対する運動を展開した幾人かの顔とその一貫した主張でした。それは①「オリンピックスタジアム建設予定地は市内に残された貴重な自然環境であり、一過性のイベントと引き換えに失うに忍びない。今ある自然をありのまま子孫に伝えることは人としての使命である。」、②「オリンピックがそれ自体の意義や目的に寄らず、単なる地域振興イベントとして開発の隠れ蓑にされようとしている。」と言うものでした。あれから数年が過ぎ、今も「スタジアム予定地」は雑木林のままです。

さて、翻って「愛知万博」です。計画によると会場は名古屋市東部に隣接する丘陵地帯を開発するようです。内容はおろかテーマさえ未定の内に場所だけが決まっていることが私にはとても不思議ですが、それはさておき、先程の反対理由①②を新聞報道等の県の説明と対比すると、少なくとも現状の内容説明の限りでは、まったく同一理由による反対運動の高まりを予感させます。

そして、私ども県委嘱自然観察指導員の取るべき立場ですが、私は指導員の使命は県民の指導である以上に、自然を保護する立場に立って発言し、県当局をも「指導」する（とは実におこがましい言い方ですが……）事ではないか。要するに県の施策に対して自然を保護する立場から意見を述べるべき立場にいるのではないかと考えます。従来そういった動きがあったとはあまり聞きませんが、今回「万国博」という大事業が県によって動き出した事で、我々も態度を決めざるを得ない時を迎えたと言えるでしょう。もちろん不毛の反対主張でなく、より良い形を求めた建設的助言がされねばならないのは当然ですが……。

植物雑感

(奥三河支部 石川静雄)

奥三河の玄関口に位置する新城は、年平均気温15℃、年間降水量約2,000mmで、比較的温暖な準山間地帯に属し、自然植相も西南暖地要素が主因子で、カシ・シイ・タブ等の暖帯林からなり、植物の種類も多い。また、この地方は早くから山林に植林が行なわれてきたが、現在、成木期に入り周辺の自然環境が大きく変化してきている。更に、工場立地等大規模開発による植生の変化、野草の乱獲等悪性的な植生変化の要因が山積みしており、心配だ。私も趣味で長い間植物を友とし、付きあっている一人だが、昨年も自然観察を通じて幾つかの学習体験をしたので、2～3の植物について感想を述べてみたい。

その1. ユウスゲ(ユリ科)について

新城では、豊川左岸の赤石山系(カンラン岩・ハンレイ岩)地帯、桜渚周辺の結晶片岩地帯に自生しているが、右岩の花崗閃緑岩及び領家変成岩地帯では確認できない。(調査不足か?) またユウスゲは清楚な美しい花の持主であるが、なぜか

人工的な改良、植栽がなされていないように思う。

同属のノカンゾウ・ヤブカンゾウに共通したことだが、葉が軟弱で観賞価値が乏しいためか、理由はともなく、ユウスゲは自然のままにしておいてやりたい。

その2. アケボノソウ(リンドウ科)について

新城では、水田の山林転用地の湿潤な所に群生をみるが、この植物の花は小型であるが造形模様が美しく、また、名前のように夢があり楽しい。しかし、草丈が高く、衣類に粘着する種子が嫌われる雑草だが、矮性種に改良できれば観賞価値は十分。

その3. サイカチ(マメ科)について

新城に自生(?)する大径木のサイカチは、天然記念物としての可能性はどうか。本会の熊谷先生と協力して、その実現化に努力してみたい。

前回指名のありました井上久義さんは転勤により退会されましたので、代りに石川静雄さんをお願いしました。なお、次のリレー投稿は、永井利幸(名古屋)、棚川菊蔵(知多)、鈴木友之(東三河)の各氏にお願いします。



おたよりコーナー

拝啓 協議会 殿
(前尾張支部 井上久義)

拝啓

愛知県に9年8ヶ月遊ばせて戴きました。

自然観察指導員になったのも、レクリーダーになったのも、この地の恵みでした。野鳥・野草・自然・人との遊び、友達100人できて、たくさん、たくさん、ありがとう。

この喜び・楽しみ、伝えていきたい、教えていきたい。それが、私を、とても大切にしてくれたみなさんへの、ただひとつ期待にこたえることだと思うから。

(この手紙は、尾張支部の井上さんが
茨城県への転勤により退会された時に、
運営委員長の佐藤さんに出されたもの
です。)



支部だより



名古屋支部

11月20日(日) 県委託自然観察会 東谷山

ボーイスカウト30名を含む63名の参加者と17名の指導員により、晩秋の一日を東谷山で過しました。

ここは、名古屋支部として毎年のように観察会を行っている場所で、今回も今までと違った新しい観察をと考えた結果、2週間前に12本のマツ、コナラにコモ巻きを行いました。うまくいけばいろいろな虫が入るかも……との期待をこめて当日コモを開いてみたところ、クモとカメムシだけという少なさでした。巻く時期が少し遅かったようです。もう一つの試みとして、午後は樹木の名前当てクイズをしました。15本の普通に見られる樹木に番号をつけて、名前を当てようということでしたが、知っている人が名前を言ってしまったりで、ゲームにはならなかったようです。

東谷山に普通にある樹木位は覚えた方が自然に親しむためにはよいと思われ、参加者もこれを機会にいくらかは名前に関心を持ったように見えました。しかし、名前当てゲームでは自然に関する理解という点では不足するため、ゲームとあわせて、例えば生えている環境にも注意を向けるといった工夫が必要と思われます。ポイントや観察方法が決る時、それをさらに効果的にするにはどうしたらよいかともう少し工夫することが大切であり、そこに技術等の進歩があるのですが、いつも反省するばかりなのは残念です。我々の会がマンネリに落ち入らないためにも、いつも熱意をもって工夫する習慣をもつことが課題のようです。

東谷山では、その他に落葉ひろいをしてアルバムに貼るとか、どんぐりひろいをして遊んでみるようなこともしました。

何回か観察会をして慣れた場所も時によりけりで、次回は新しい場所で行いたいというのが、終わってからの私の気持ちでした。指導員も楽しくないと永続きしませんものね。

12月21日(水) 忘年会

名駅近くの「にしの家」で支部の忘年会を行いました。忘年会といっても、そこは自然観察指導員らしく、自然についてのスライドを見ながら一杯としました。ナベをつつきながらのスライドもまたいいものです。

名古屋支部の活動も多くの人に支えられて、また1年の経験を重ねました。今年は前半の観察会で参加者が少なかったのが残念でしたが、来年はそれを補うべく、良い観察会をやりたいものです。

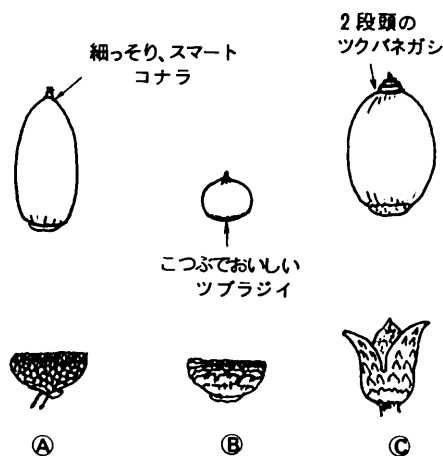
(佐藤国彦)

尾張支部

11月6日(日) 県委託自然観察会 瀬戸市定光寺

「天気がいいなあ。こんな日曜日久しぶりだからなあ。」「紅葉は真盛りだしねえ。」——参加者の歓声ではありません。参加者を待つ指導員の方々のため息です。もう時間だというのに、まだ数人、みえる予定の方もまだなのですから。「いづごろ連絡したの?」「ニュース流したのいつ?」とP.R.不足が明るみに出てきます。反省その①—P.R.不足。人が集ってこそその観察会。

何は もあれ、一般参加者22名、指導員12名の参加で、和気あいあいと始められました。今回は『森の自然を楽しもう』ということで、主役は時節がらしイ・カシの森のドングリくん。今年は、アラカシの実だけが豊作ながらまだ青く、一番大柄でカッコいいツクバネガシの実是不作(昨年の指導員講習会の時はいっぱい拾えました)で、たっぷりという訳にはいきませんでした。ツブラ



くぼくのパンツはどれかな? >

ジイの実はなかなかの美味で、別のグループの人たちを引き寄せるほどの人気を集めました。昼食時にドングリセット（ドングリの仲間の見分け方図表とそのドングリのセット）のおみやげも配り好評でした。

また昼からじっくり時間をとった、「もうひとつの森の立役者＝土壌動物」の観察も、楽しんでもらいました。まずは、大竹さんの蛇腹式紙芝居で、土壌の世界のおはなし。（好評！）それから農業用の黒いビニールの上に置かれた土の前にかがんで、皆でワイワイガヤガヤ土壌動物探しです。ここでの一番人気は、やはりカニムシ。この千両役者はたくさんおり、肉眼と30倍の単眼鏡（ペンタックス・モノキュラー8×30）でじっくり見ることができました。（ササラダニを見せてあげたい！）

少ないながらも熱心な参加者が多く、楽しく行なわれた観察会も終り、反省会を兼ねて指導員皆さんで立ち話。P.R.を何とかしなくては……と口々に申す中、「あっ、アンケート忘れた！」——反省その②（三輪治代美）



好評だった大竹式紙芝居

西三河支部

11月20日（日） 支部観察会 豊田市猿投山

午前10時に猿投山麓の駐車場に集合、快晴とはいえ肌寒い天候であったが、大悲殿周辺の紅葉は目を見張る鮮かさであった。

出席者は10名の寂しい例会となったが、すぐに県下一斉水生昆虫調査の場所を天然記念物「菊石」下流と定め、採集を開始したが、花崗岩の風化地帯を流れる貧栄養の溪流なので、予想通り水生昆虫の種類・数量とも少なかった。規定通り終了し、

得られた資料は担当者が現在分析中で、乞う御期待！

早速、昼食の準備にとりかかった。西三河支部では、かねがね、きのこ採集等の例会の際に、採ったキノコ等をみんなで一諸に試食したらどうかという意見があり、今回は、購入しもちこんだ食品ではあったが、みんなで作り、みんなで食し、意見交換を行った。（安井貞夫）

東三河支部

10月2日（日） 豊橋動物園友の会主催観察会

動物園周辺で行われた自然観察会に指導員を派遣しました。一般参加者15名、指導員3名。

10月23日（日） 豊橋市主催観察会

豊川市財賀寺で行われた自然観察会に指導員を派遣しました。一般参加者40名、指導員3名。

11月6日（日） 支部観察会 豊橋市嵩山蛇穴

支部主催の自然観察会で、本年最後の行事となりました。一般参加者29名、指導員12名で、一般参加の中には岡崎市や知立市からも7名の参加がありました。

主な観察テーマは、①水穴のでき方、②蛇穴の探検、③雑木林と人工林、④植生や階層構造、⑤木の実等でした。今回の観察会では、蛇穴の中という特殊な環境ということで事故等の心配もありましたが、各指導員が適切な指導で事故もなく、楽しく観察できたという参加者の声をいただきました。また、水は酸性かアルカリ性か？岩石と酸はどんな反応を示すか？ということで、理科実験を加えたことによって理解が深まったとのアンケート結果は、指導員の何よりの喜びでした。

中京テレビの取材により、蛇穴の中での生物探しの模様や洞内の姿が当日と翌朝に放映されました。

東三河支部の本年度行事を振り返ってみますと、支部主催観察会4回、会員研修3回、指導員派遣6回を実施しましたが、事故もなく、好評のうち終了出来ました。これも、協議会の御指導と、支部会員がそれぞれの立場で絶大なる御協力いただいた賜ものと、厚く御礼申し上げます。元年度は更に充実した前進の年であることと、会員の皆様の御健康を祈念いたします。（武田孝夫）

協議会行事報告

運営委員会 10月22日(土)

事務局の内部化にともなう「組織運営規程」、「経理規程」の変更案と来年度事業計画を検討した。

土壤動物研修会 Part1 11月12日(土)～13日(日)

今年から新たに始まった土壤動物研修会の第1回のササラダニの権威青木淳一先生(横浜国立大学環境科学研究センター教授)を御招きして、次のとおり開催しました。

場所: 南設楽郡鳳来町愛知県民の森

内容: (12日) 講義とツルグレン装置の作成
(13日) 土壤動物の顕鏡と分類

参加者: 26名

「土壤動物とは」から始まり、手製ツルグレン装置の作製・スライドによる土壤動物の紹介で、第1日は終了しました。青木先生の体験に基づく講義は独自性とユーモアに富み、とても楽しいものでした。中でも「ササラダニの糞はバクテリアが特に好み“落ち葉のハンバーグ”、トビムシの消化管は“落ち葉のソーセージ”と呼んでいます。」「教科書では分解者の定義を“有機物を無機物に変換する生物”としていますが、ミミズやダニ等もりっぱな分解者といえます。」等、おもしろい話が次々ととび出し、本当にユニークでした。

講義終了後の懇談会も話ははずみ、持参の酒類がどんどん減っていきました。気の早いグループは顕微鏡をとり出し、落下したばかりのダニやトビムシを見始めました。

翌日は、ツルグレン装置で集めた土壤動物のブレバートを作り、早速分類を始めました。全員が初めての体験で、最初のうちは種類の見分け方がなかなか呑み込めませんでしたが、昼近くにはかなり慣れてきました。中でもササラダニ類は特徴的な形態から見つけ易く、集中して分類していききました。全部で19属確認できましたが、広範囲に分布する種と常緑広葉樹林を好む種が多く見られ、自然環境との関連性がうかがえました。

また、環境指標生物としての有効性、定量調査より定性調査の重要性、夏に減少するという季節変化等、協議会で調査中の水生昆虫との近似性を

強く感じました。

本当に楽しい研修会でしたが、開催地の遠さのせいか参加者が比較的少なかったのが残念です。

(北岡明彦)

理事会 12月3日(土)

○「組織運営規程」「経理規程」の変更を承認。

規程の変更は当面次年度の体制を考えて、事務局(県自然保護課)の事務を対外的に必要なことのみとし、その他の事務は運営委員会で行うこととしました。規程類は、今後会の体制を考えて修正していく予定です。

○次年度事業計画案の検討

おおむね63年度と同じように事業を行います。

(佐藤国彦)

指導員研修会 12月10日(土)～11日(日)

場所: 犬山市継鹿尾 寂光院とその周辺

参加者: 21名(内女性7名) 他に公演設営準備
に来県中の秋田県わらび座から女性4名

内容: 次のように講義・観察・演習を行う

①講義「協議会の沿革と活動」(佐藤国彦)

活動として、普及(主として自然観察会において自然の大切さとその仕組みを知ってもらう)、調査(県内及び隣接地域の自然の現状調査)、研修(自然観察指導員のレベルアップ)の3本柱であることでまとめられた。

②討論「協議会の活動とその問題点」(長尾智)

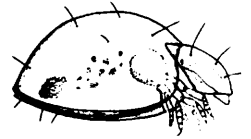
自然観察会の参加者が減少の傾向にある…協議会に明日はあるかと題して大討論会を展開し、世に知られる実績(調査等)を挙げることにPRの改善の両輪の活動が必要というまとめ。(時間不足で検討不足に……)

③夜の観察「糖蜜に集まるキリガ」(大竹勝)

黒砂糖とビールのカクテルに誘われたガが暗い樹幹に見る。冬でもガが活動していることや強いライトの照射は嫌われることを知る。

④講義「自然観察会の実施について」

自然観察会の小道具の紹介。手造りのモノが望ましく、こちらの熱意を参加者に知らせることが重要。指導者側が楽しくなければ参加者が面白い筈がないを強調。



大竹さんの蛇腹式絵本がやはり圧巻。

⑤懇親とかいろいろ

スライド上映…大雪山から屋久島まで一挙上映。(長すぎたとの声あり) ツルグレン装置を持ちこんで土壤動物検鏡。お酒はなくとも結構暖く、深夜に至る。

⑥早朝探鳥……希望者

⑦現地観察「シダを見よう会」 (北岡明彦)

手造りのパンフを頂戴し、豊かな自然の中でこの地の地質の概観から始まる。常緑樹で覆われた山を大きく望見し、ブナ科の樹形特徴の解説(ツブラジイの樹冠は丸い等々)。シダ植物と種子植物の生活・形態の相違点である前葉体を見せられて、造精器と造卵器の話に合点。話はだんだん種のお話になって、ヒカゲツツジ(学名ロードデンドロン・ケイ・スケイ)が尾張の本草学者伊藤圭介由来の種類と聞く。草木虫鳥の名前合せのみに汲々していたことがはずかしい。

⑧実習「ポイント探し競争」 (北岡明彦)

観察会のポイント探しの実習。寂光院の入口より宿坊まで約200mの間で、1時間50個目標にして実施する。平均40個位は出された。各ポイントを、3点(自然保護又は自然と人

間の関係に関するもの)・2点(自然の仕組みに関するもの)・1点(その他)として採点した結果、知多支部班が優勝。

樹を見て森を見なくなる私達にとって良い研修でありました。

⑨講義「自然が教えてくれること」(竹内哲也)

人間も指標生物のひとつであり、神経痛で天候変化の予知、フンドシの湿り方で明日の天気の前知から始まり、指標生物のいろいろ特に長年の理科教育の御経験からのウンチクを傾けてのお話は、まさに真打の一番であった。

このように、24時間にわたりびっしりスケジュールが詰まっており、寒いなか皆さん本当にお疲れ様。 (西三河支部 宮本敬之助)

運営委員会 12月24日(土)

主に64年度(元年度となりました)の事業計画について検討しました。

6月の環境週間は「水」をテーマに全県一斉自然観察会を行うこと、自然観察会のP.Rを充実させること、研修会は土壌生物と樹木の名前に関して行うこと、視察研修は木曾駒ヶ岳へ高山植物を見に行くことなど決めました。 (佐藤国彦)



おたよりコーナー

総合学術会議

「野生動物の保護」分科会から
(名古屋支部 朱雀英八郎)

科学者会議の総合学術集会在名古屋で開かれ自然保護に関し野生動物保護の基本的問題がとりあげられた。(参加者90名)

かねてから自然保護・環境問題が学問的にどう位置づけられ、その研究・実状調査はどうなっているかに関心があり、参加した。自然保護協会から森・小林両氏、IUCN「種の委員会」の小原先生や、岐阜県自然観察指導員協議会の小野木会長、我々協議会の大竹会長も出席。

発表は、1.野生生物の保護・管理への論理(小原秀雄)、2.大型獣の実態と森林の関係(東京農工大)、3.野生鳥獣の保護と行政の現状(

静岡県)、4.国有林の天然林施業とサルの北限(京大霊長類研究所)、5.ゼニガタアザラシの保護、5.自然保護と環境アセスメント(ゴルフ場の例)と範囲が広く、また参加者も多様だった。

自然や緑が大切というが、動植物の生態、林業などいろいろな分野にかかわるし、行政的にも環境庁のみでもある。いろいろな自然が少なくなり、熱帯林など国際問題にもなり、一方で観光資源にされたりするが、専門的な調査研究と共にその価値を位置づける学問、専門家や関心ある人との交流、そして私たちの身近な自然に親しみ、大切さを実感し、広げていくことが課題でしょうか。

とりあえず報告としますが、関心ある方、手元に資料がありますので連絡ください。

行 事 案 内

2・8(日) 名古屋支部 総会 支部員に連絡 (国枝)
2・11(祝)～12(日) 名古屋支部 茶臼山 雪上観察会 (アニマル・トラッキング等) 《希望者は、福西寿広まで》
2・12(日) 尾張支部 定光寺月例観察会 JR中央線定光寺駅 9:00 テーマ「越冬昆虫を探す」
2・19(日) 知多支部 地質観察会 東海市農業センター 8:30
3・5(日) 協議会総会 13:00 愛知県青年会館 (名古屋市中区栄一丁目) 総会……昭和63年度事業報告・決算報告、 平成元年度事業計画・予算 講演……「環境指標としての都市の野鳥」 大阪市立大学 山岸 哲教授
3・12(日) 尾張支部 善師野月例観察会 名鉄犬山線善師野駅 9:00 テーマ「冬芽の観察」
3・21(祝) 土壤生物研修会 (協議会) 10:00～15:00 豊田市鞍ヶ池ロッジ ダニ類の名前調べ (問合せ先: 佐藤国彦)

会 員 異 動

今回はおめでたい会員異動をお披露目します。
昨年3名の独身女性会員が結婚され、次のとおり
苗字が変わられました。

特に伊藤悦子さんと中島芳彦さんは、会員同士
としては記念すべき第1号カップル誕生となりました。
本当におめでとうございました。

皆さんの末長い幸せと、今後の活発な活動を御
期待いたします。

《苗字の変更》

(旧姓) 伊藤悦子 → 中島悦子

(旧姓) 高須慶子 → 川崎慶子

(旧姓) 津島孝子 → 松岡孝子

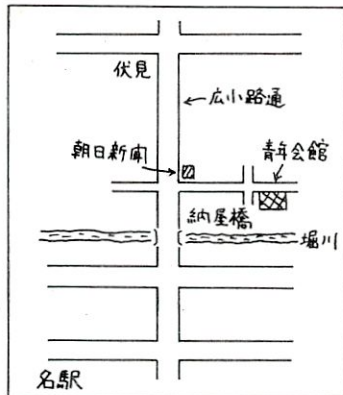
《退会》

井上久義 (63・12 茨木県転出)

お 知 ら せ

◎ 協議会の総会について

左の行事案内にありますように、3月5日(日)
午後1時より、名古屋市中区柳橋の青年会館にて
第11回の協議会総会を開催します。次年度の協議
会の活動計画等を決定するとともに、総会終了後
に大阪市立大学理学部教授で都市近郊の野鳥を長
年研究されている山岸哲博士をお招きして、「環
境指導としての都市の野鳥」について講演してい
ただくよう準備
を整えています。
私達に身近な野
鳥に関するお話
は、必ずや今後
の活動に役立つ
ものと思われま
す。会員の皆さ
んが多数出席さ
れるようお願い
します。



会場位置図

【編集後記】

今回の表紙は、趣をガラッと変えて『土壤
の妖精? ササラダニ』の絵を辻さんにお願
いしました。11月中旬に鳳来町で行った土壤動
物研修にてササラダニの権威である横浜国立
大学の青木淳一先生に土壤ダニ学入門を教え
ていただいて以来、どうもダニにとりつかれ
そうなこの頃です。拡大細密図だとちょっと
不気味ですが、顕微鏡下ではなかなかかわ
いいものです。(ホントですよ……)

協議会の新年度も3月から始まります。観
察会に調査にと、会員の皆さんがますます御
活躍されることを期待しています。頑張りま
しょう!

(北岡)

編集事務局: 瀬戸市原山町1-6 県職住宅
3棟401号 北岡明彦